

みどりみらい ぐんじとしのりの議会報告

2002/10/19 Vol. 111 西の原 2-3-6-104 TEL/FAX
45-8362

E-MAIL ID / toshigunji@hotmail.com

印西市議会/平成 14 年第 3 回定例会報告 (4)

いつもお世話になっております。印西市議会(9月定例会)は、26日(木曜日)にて、閉会しました。今回も、9月議会での議案審議の結果とその内容を中心にご報告をさせていただきます。

議案審議とその結果(3)

印西市障害児学級の介助員配置を求める請願について

(請願内容/項目 一部省略)

平成10年3月「印西市障害児基本計画」により、障害者に対する基本計画が策定されました。その中で障害児教育の充実をめざし、指導体制の整備、推進を掲げています。また、各学校に障害児学級が設置され、たくさん子どもたちが地域の学校で学べるようになりました。しかし次々と障害児学級が設立されていくなかで、指導員の指導力不足、それをサポートする介助員がないことが保護者の間から不安の声としてあがっています。

現在、印西市では4人の介助員がおり、その方たちが、曜日交代で数校を担当しているというのが現状です。近隣の我孫子市では、指導教員のほかに、20名以上の介助員がいます。障害児一人につき、担当者が、必ず一人ついているのです。担当者が都合でつけないときには、学級担任以外の教師が指導にあたり、常時個別サポートが可能になっています。また普通学級に在席していても、サポートが必要な児童には介助員がつけられています。隣の佐倉市においても、障害児一人につき、一人の担当者がついています。

そのような中で、私たちの印西市における障害児教育の介助員数は近隣市町村と比べ、かなり少ない状況にあるといえます。もし事故があったらと考えると保護者は安心して学校へ送り出す事ができません。何かが起きてからでは遅いのです。介助員の配置は障害児をもつ親の願いです。傷害を持つ子どもたちが、安全にそして十分な指導が受けられるように次の点についてお願いいたします。

- 印西市の全ての障害児学級に介助員の配置をし、さらなる障害児教育の充実を図るようお願いいたします。

(結果/可決) *私も賛成しました。

この請願に関しては、紹介議員の松本隆志議員を通して、代表者にお会いし、請願内容を詳細にお聞きしました。その後、私が所属する文教福祉常任委員会にて2回にわたっての審議を行い(満場一致で採決)本議会へとつなげ今回の可決に至りました。

文教福祉常任委員会では、私からは、他市の状況を踏まえた介助員の配置基準についてや、実現にむけての教育委員会の考え方を質問いたしました。

<参考> 印西市の特殊学級 (平成14年8月)/抜粋にて

| 学校名 | 学級数 | 児童生徒数 | 学校名 | 学級数 | 児童生徒数 |
|------|---------|-------|------|------|-------|
| 大森小 | 1 | 6 | 印西中 | 1 | 1 |
| 高花小 | 1 | 4 | 木刈中 | 2 | 5 |
| 西の原小 | 1 | 4 | 原山中 | 1 | 3 |
| 原小 | 1 | 1 | 西の原中 | 1 | 6 |
| 小計 | 14校中10校 | 30 | 小計 | 6校全校 | 20 |

さまざまな立場の全ての人々、子ども、高齢者、障害のある人、女性も 男性も

国籍も関係なく 誰もが生き生きと、穏やかに、朗らかにらせる街でありたいものです。

北総・公団線の運賃値下げを求める意見書の提出について

(請願項目)

- * 北総・公団線の通学定期券の割引率引き上げを速やかに求めます。
- * 北総・公団線の運賃を適正水準まで引き下げを求めます。

(結果/可決) / 私も賛成しました。賛成にあたり、以下のような「討論」を行っています。

~私は日常、北総・公団線を利用して、東京に通勤しております。

まさに利用者の立場で、今回の討論をさせていただきました。

まず、学生の定期券の問題ですが。これは深刻です。

次に、運賃の問題ですが、非常に難しい問題です。なぜならば、北総開発鉄道は黒字であるといわれておりますが、特殊な状況の中での話です。(現在、猶予されている建設費の償還をはじめなければならなくなれば、その黒字分は容易に飛んでしまいます。)

そのために、黒字分は、

- 借入金の返済にまわすべきではないか。
- 現状の黒字分を繰上返済したとしても、電車賃の下げ幅が数十円程度ならば値下げの意味は如何ほどあるのか？ 等々の意見もございます。

さらには、

- 運賃値下げしてくれればありがたいのですが、今のままで行えば、いずれは自らや将来の住民に負担が倍返しでくるのではないかと。これも十分に考えるべきだと思います。

そもそも、この北総公団線の運賃の問題は、国の交通政策の問題です。この鉄道がここまで市民の皆様から不評を買う責任はやはり県にあります。そして料金をはじめ鉄道事業者の監督官庁である国土交通省の責任が最も重いものと思われま。

(私が所属する会派「まちづくり研究会」(松本隆志代表)では、成田新高速鉄道の早期完成について1999年9月6日、当時の運輸省よりホームページを通じて呼びかけられていた「21世紀初頭における交通政策について」に意見書を提出しました。その結果が、現在の「成田新高速鉄道開業2010年」につながったと信じております。)

つまり、利用者は犠牲者ですが、しかし、鉄道会社もかなり経営努力をしています。それは忘れてはならないと思います。

では、私たちは何をすべきか？運賃を下げろというのは簡単です。

しかし、何を財源に下げるのでしょうか？ 今回の請願ではここまで触れていないので総論賛成とさせていただきますが、毎日の通勤の電車の中で考えます、私たちはすべき事があります。また北総公団線の会社の方とも話をする機会もございしますが、市民の役割としては、やはり、

「魅力あるまちづくりをすべきではないか。」 このように考えています。

- 鉄道運賃ひとつで、住む、住まないではなく、高いけれど、それを出してまで住んでみたいと思える、思わせるようなまちづくりをしていかなければならないと考えます。2010年には成田まで繋がる予定です。その時にこの印西市のまちづくりを考えた場合、この北総公団線だけが問題ではないと思います。印西市北部の木下、小林を通る、成田線も忘れてはいけません。印西町の時代から市民は多くのことを求めてきました。解決されているのか？殆ど求めているものが解決されていません。(多くの古参議員がこの点に不満をもっているのも事実です。)~私は議会のあと、木下駅から成田線を使って東京に行ったことも何度もあります。これを機会にこの印西市をどうしていくのかを、是非考えていただきたいと思ひます。

いつもご声援、ご支援ありがとうございます。この紙面へのご意見に限らず、市政全般へのご提言、ご批判、皆様からのご相談はいつでも承ります。あるべき市政の姿を求めて皆様と一緒に考

えていきたいと思ひます。よろしくお願ひ申し上げます。 ぐんじとしのり